

4 ディベートに挑戦 ～説得力のある表現を身に付ける～

ディベートとは、ある論題（テーマ）について肯定派（賛成派）と否定派（反対派）に分かれて一定のルールに従って討論をし、論証の強さを第三者である審判団が判定する学習活動である。ディベートでは、自分の立場をはっきりさせて筋道立ててきちんと話す力、相手の立場や意図を考えながら話の内容を的確に聞き取る力、相手を論破するために的確な質問をする力などが求められる。

ディベートにはディベーター、司会者、計時係、審判などの役割がある。J S L生徒には、指導者が今身に付いている力やこれから伸ばしたい力を見極めてそれに応じて役割を選択し、取り組ませたい。

また論題については、生徒がこれまで身を置いてきた文化や生活環境の違いを考慮し、どの生徒も参加可能な論題を工夫する必要がある。お互いに知りたいこと、伝えたいと思う気持ちが生じるものを設定することで、相互理解、異文化理解の一助としたい。

- 1 領域 話すこと・聞くこと
- 2 教材 ディベート台本
- 3 目標
 - ・調べたことをもとに資料を取捨選択・提示したり、話の組み立てを工夫したりしながら、意図や根拠を明らかにして話す。
 - ・発表者の立場や意図を考えながら話の内容を的確に聞き取ったり、流れに沿って質問や反論を返したりする。
 - ・自分の意図や立場をはっきりさせ、意見交流をする。
- 4 指導時間 8時間
- 5 指導形態 一斉指導の中でT Tで補助する。少人数での取り出し指導でも可。
- 6 指導事項・言語スキル

領域	指導事項	言語スキル
話すこと 聞くこと	【話し合い】 ・話し合いの話題や方向をとらえて的確に話す。 ・それぞれの発言を注意して聞く。 ・相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりする。	・テーマを意識し、根拠をはっきりさせて話すことができる。 ・立場の違いを聞き分けることができる。 ・説得力という観点から話し合いを判定することができる。

言語 事項	<p>【音声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方など非言語コミュニケーションについて注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションをメタ認知することができる。
----------	---	---

7 指導計画

	学習活動	伸ばしたい言語スキル	学習支援・指導・学習材
1 次 2 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○ディベートの目的ややり方を知る。 ・ビデオを視聴しながらディベートのやり方を学ぶ。 ・ディベート台本をロールプレイで演じてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの目的ややり方を理解することができる。 ・ロールプレイを通してディベートを体験することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオやディベート台本を活用し、ディベートの目的や方法をつかませる。 ・ディベート台本は、生徒にとって身近な論題で、かつ賛成・反対の立場に分かれるものにする。 ・ディベート台本は、先行実践を活用する。適したものが見つからない場合は教師が作成する。
2 次 2 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○論題案の中から自分たちがディベートを行う論題を決める。 ○立場に応じて資料収集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで話し合っ論題を絞ることができる。 ・賛成・反対の立場を決めることができる。 ・本やインターネットを使ってテーマに関する資料を集めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート台本で示した論題と類似した論題を3つ程度示し、その中から選ばせる。 ・検索のキーワードを考えさせる。 ・数値やグラフなど、説得力のある資料を見つけるよう支援する。 ★必要に応じて資料を提示する。

3 次 2 時間	<p>○立論原稿を書く。</p> <p>・賛成・反対の立場からそれぞれ根拠を明確にして立論する。</p>	<p>・資料を活用しながら話す中身を考えることができる。</p> <p>・自分の考えを順序立てて書くことができる。</p> <p>・自分の考えを支える根拠を挙げることができる。</p>	<p>★パターンを示したり、ワークシートを用意したりして書く手順を示す。</p> <p>・意見とそれを支える根拠を対応させて書かせる。</p> <p>★ディベート台本を参考にさせたり、ディベート台本を書き換えて立論原稿を書かせたりする。</p>
	<p>○反論や質問を考える。</p> <p>○想定される反論や質問に対して反駁や答えを考える。</p>	<p>・想定される質問を考え、それに対する答えを用意することができる。</p> <p>・相手の根拠を推測し、それに対する質問を考えることができる。</p>	<p>・根拠が弱い部分を考え、それをどう補足するかを意識させる。</p> <p>・相手を論破することを念頭に置いて質問を考えたり自分たちの論を補足したりさせる。</p>
4 次 1 時間	<p>○ディベートを行う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>・ルールを守ってディベートに参加することができる。</p> <p>・ディベートを通して説得力のある話し方について考えることができる。</p> <p>・ディベートを終えて学んだことや感じたことをまとめることができる。</p>	<p>・ディベーター、審判、それぞれの立場での目的を確認する。</p> <p>・どの立場でも説得力を意識させる。</p> <p>・ディベートの目的と照らして学習を振り返るようなワークシートを用意する。</p>
5 次 1 時間	<p>○フリーディスカッションをする。</p>	<p>・賛成・反対の立場にこだわらず、論題について自由にディスカッションすることができる。</p>	<p>・ディベートでは出し切れなかった自分の考えを立場を超えて自由に発言させる。</p> <p>★異文化体験を生かして発言させる。</p>

